

2020年6月20日

昭和大学医学部附属看護専門学校
学校長 小川 良雄 殿

学校関係者評価委員会
委員長 植松 弘幸

学校関係者評価委員会報告

2019年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員会委員

委員長：教育に関し知見を有する者
株式会社アゼスト教育事業部長 植松 弘幸

委員：実習先病院統括看護部長・卒業生代表
学校法人昭和大学統括看護部長 増田 千鶴子

委員：教育に関し知見を有する者
東京女子医科大学看護専門学校主事 坂本 倫美

委員：教育に関し知見を有する者
昭和大学保健医療学部看護学科教授 田中 晶子

2 学校関係者評価委員会の開催について

① 日時：2020年6月10日（水曜日）14:00～15:15

② 場所：昭和大学医学部附属看護専門学校会議室

3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり

以上

別紙

I 重点事業について

1 重点目標 (1) について

① 取組課題

- ・カリキュラムの充実

【事業計画】

2022年の看護師養成所カリキュラム改訂に向け、各科目の達成課題や学修内容等全般的な見直しを行う。

【計画の達成度】

2020年度カリキュラムや学則、履修要項等の見直しを実施し学内手続を経た後、関係官庁に届け出を行い令和2年4月1日より運用を開始する。

② 取組課題

- ・教員間授業評価の充実

【事業計画】

より良い教育実現のために、教員間による授業見学・評価を体系的に実施する。

【計画の達成度】

年間計画を4月に立案し、授業見学までの準備から評価までの体制を整備しました。授業参観前後の打ち合わせとリフレクションは有効で、お互い教員間で研鑽しあうことができ、課題が明確になりました。来年度も継続する。

③ 取組課題

- ・医学部附属看護専門学校奨学金の新たな運用開始

【事業計画】

当該奨学金の貸与規程の改正に伴い、委員会の新規立ち上げや貸与基準の制定等、新たな貸与方法の運用を開始する。

【計画の達成度】

奨学生の選考について、保護者の所得証明書の提出及び学生との面接を行い奨学生選考委員会委員の審議により厳格な選考を行っている。

Ⅱ. 各評価項目について

1 学校経営

昭和大学医学部附属看護専門学校評価規程を定め、学校のビジョンおよびそれを実現するための組織目標を策定し、中間評価を実施し、後期に活かしている。また学校組織図、会議組織図を見直し会議運営の見直しを図っており、学校経営は組織的に行われている。しかし全教員への周知がなされていないという報告があり、今後は、中間評価や最終評価の報告会を企画し経営に当たって欲しい。

学校評価結果について教職員への周知が課題ということであるが、学校経営をしていく上で教員が十分承知しておくことが大切と考えられるので、周知方法の工夫がもっとあったらよい。

2 教育課程・教育活動

学習内容は教育理念を踏まえ、教育目標に即したレベル目標を挙げ、到達状況を中間及び卒業時に評価している。また2020年度カリキュラム改正にむけて教育目標及びコンピテンシーを検討しており、時代の要請に応える内容になっている。

授業内容は具体的にシラバスに記載されているが、シラバス作成FDを行い、シラバス作成基準を設けると教育の質が担保されるのではないかな。

授業後のアンケートは、今後も継続して活用して頂きたい。

効果的な授業運営を図るため、学習の順序性や演習のタイミングなどを検討し、時間割は3か月以上前に学生に提示しているため調整はできている。

実習目標が達成されるよう環境は整備されている。実習期間内に指導者が常在し、学生個々の指導方針など、教員と随時連絡調整を行っている。また、指導者と教員が参加する学習会を開催し、領域毎に作成した実習要項を基に説明会を行う等の連携を図っているため、今後も継続して欲しい。

単位認定のための評価基準及び評価結果の説明はなされているが、模範解答の掲示はなされていない。また演習の評価は担当教員のみで行われているため、今後は担当教員以外の方が評価すると、公平で妥当な評価に繋がるのではないかな。

実習時の患者への倫理的配慮については、昭和大学の規定に基づいて実施し、受け持ち患者に同意書を得ているため問題はない。

インシデントはヒヤリハット報告書を活用して、適宜カンファレンス等で教材化し学生指導に活かしているため、今後も継続して欲しい。

授業評価アンケートの回答率が20%以下であり、今後の授業検討に繋げるには不十分である。学生に授業評価の重要性を説明し、最終講義時に時間を作る等、回答率を上げる工夫が必要である。

各学年で「理想の看護師像」というテーマでチェックリストを作っているということだがとても楽しいと思えた。教育目標を反映しながら学校の特徴も盛り込み学生たちが自分で理想の看護師像を考える機会としてとても良いと思う。

「コンピテンシー」とはどのようなものか？学生の資質や付けさせたい能力ということか少し不明である。

授業公開を参観して教員がお互いに授業内容について話すことは、工夫・改善につながると考えられるので大変良い取り組みと考える。

指導者と教員が参加する実習指導学習会で連携が深まると考えられる。また卒業生が指導者として育っているところは強みである。

模範解答が示されないことで、学生の学修機会や気づきが減ることは無いだろうか。

授業評価アンケート回答率20%以下であれば、アンケートを取る意味があるのか不明のため、違う方法を考えた方がよいと思う。

3 入学・卒業対策

多くの入学者を確保する為に前年度の結果を分析し、応募者の確保に努めている。また質の高い卒業生を輩出する為に、低学年から学年・クラス担当で個別指導を行い、随時保護者とも面談する学習支援体制が整っており、高い国試合格率である。大学病院就職率は高いため、今後はホームカミングデイを実施し、卒業後の支援体制を強化して欲しい。

4 学生生活への支援

進学・就職に関しては、業者による説明・指導やキャリア支援室による就職ガイダンスを行い、先輩との就職懇談会も実施し情報提供ができています。奨学金制度もあり、学生相談室・保健管理センターも設置され、大学内のサークルや部活にも参加し、活発に活動し、学生生活への支援体制が整っている。

「行事等で部活動と授業が重なる場合は公欠届を認め、公認している」という点は授業が優先ではないかと思うが、大変大事にされている行事であろうと考える。

5 管理運営・財政

予算計画、年間事業計画を策定し、教員の組織に物品管理委員会を設置し、在庫・予算管理を行っている。学生や教職員等の人権・個人情報の保護については、徹底した取り組みがなされており、学校運営に学生の意見が反映されている。しかし危機管理マニュアルの見直しが不十分であるため、早急に見直す必要がある。

6 施設・設備

施設・設備の安心、安全は、確保されている。教育目標達成に必要な施設設備・教材は整っているが、実習室が狭く、学生が自主的に学習できる場が不足している為、確保する必要がある。図書室は専任の司書がいて、十分活用できている。

7 教職員の育成

学校の抱えている課題を明確にする為に、大学の教育推進室と共同して、毎年ワークショップを企画し実施している。しかし学会または研修の成果発表会や、教員が計画的に研究調査活動を行う体制が整っていない。教員の授業を他の教員が参観、講評できる体制は整っているため、「授業研究」等テーマを決め、教職員の育成計画に取り組んで欲しい。臨床看護研修制度・専門領域認定が受けられる支援体制が整ってい

ない為、大学病院と連携し、体制作りを行う必要がある。

看護専門学校の教員は、3年で学生を卒業させ国家試験も全員合格を求められるため、休む暇なく様々な業務をこなしながら学生の支援にも力を入れている。臨床研修や研究活動は教員の質の向上のため必要なこととわかってはいるが、時間やコストの捻出、教員を支援する体制がないと自分の努力だけでは厳しいのではないかと考える。そのような中で貴校は、臨床との連携も強いことからよく努力されていると思う。

8 広報・地域活動

ホームページは大学と連携し、学内でホームページ委員会を設け年10回以上の更新を実現している。地域への広報・貢献・奉仕活動・連携として、近隣の小学校や大学の行事を通じて地域との連携を強化しており、今後も継続して欲しい。

以 上